

《令和 4 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1)相談件数(R4.12.31 現在)

- 実支援人数 871 人
- 延支援件数 3,338 件

(2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動面、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 58.1%であり、成人期以降の相談が半数を超えている。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活における困難さへの具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素が強いものが多い。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態により、将来を見据え自発的に福祉サービスを利用して早期の自立を目指すケースや、現役世代の保護者からの親亡き後の相談が増えている。また、家族全員が発達障害のため生活に支障をきたし、障害者基幹相談支援センター、生活自立・仕事相談センターと連携し、家庭そのものを支援するケースも増えてきている。家族の在り方の形態も変化していることから、今後は家族以外のサポート力が必要不可欠になってくるとされる。そのためには、他機関とのより緊密なネットワーク作りが求められる。

18 歳未満の全相談のうち乳幼児期が 25.3%、小学生が 33.7%、中学生が 20.0%、高校生が 21.0%であった。中学生や高校生年代の相談件数は例年と同程度だが、乳幼児期の相談件数は増加し、一方で小学生の相談件数は減少している。

乳幼児期から小学生までの相談では、幼稚園や保育所(園)、学校といった子どもの所属機関から発達について指摘され、相談を勧められたケースが増えている。突然の指摘による戸惑いや受診に際しての不安、障害受容していく過程で生じる気持ちの揺れ等についての相談が中心となった。保護者としても、育児や子どもへの関りが思うようにいかない憤りや不安、違和感を抱えつつ、相談を重ねることで少しずつ特性の理解に繋がっている。就学後には家庭内での問題よりも、学校での対人トラブルや学習での躓き等が目立つようになり、教育機関での相談へと移行していったことで小学生の相談件数が減少したと考えられる。

中学生、高校生年代では、保護者からは進路や家庭内での関わりについての相談が多い。子ども本人からは、対人面や学習面、家族との関係についての相談が多く、対話を通して自己理解を深めている過程であると考えられる。

(3)相談支援・就労支援状況

就労準備支援では相談者のニーズやスキルの把握から個々の障害特性の理解を深めることに重点を置き支援を行っている。職業のマッチングと同等に、相談者が心身の健康や生活リズムの安定が継続的な就労につながると気付くことで、二次障害の治療や予防、日常生活課題に取り組めるようサポートしている。

就職活動支援では千葉障害者職業センターやハローワーク、千葉障害者就業支援キャリアセンター、就労移行支援事業所等の関係機関と連携しながら、相談者に合った就職先が見つかるよう支援している。新型コロナウイルス感染症が徐々に落ち着いてきたことで、これまでなかなか動けなかった方が事業所を利用して就労準備を進める、現在働いている方が次のステップとして転職活動を始めるといった動きが増えている。

今年度 12 月時点の新規就職者数は 11 名で内 6 名が障害者雇用枠、2 名が一般雇用枠、3 名が就労継続支援 A 型事業所での採用である。就職先は特例子会社(事務補助)、倉庫(ピッキング作業)、販売(仕分け、清掃、ネット販売)、IT(プログラミング)等である。

一方で、就労訓練を受けて正社員や障害者雇用で働きたいという希望を持ちつつも、経済的な理由によりアルバイトを継続せざるを得ない相談者も多く、障害福祉の支援へ繋がるのが難しいといった課題もある。

2. 講師派遣

(1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている相談の内容としては障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

すくすくサポートや子育てアシスト等、他の事業も併用されている幼稚園・保育所(園)・認定こども園等から依頼を受けるケースが多い。また講師派遣のみでのつながりであっても、半年に 1 回など定期的に派遣を希望される例が増加している。

(2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

平成 29 年度より目的を鑑み、園内研修に重点を置いた形式(従来の LITE)での実施を基本として行っているが、園からの希望があれば、保護者への質問票配布・返信を行う形式(従来の BASIC)も選択できる形とした。募集は幼稚園・保育所(園)・認定こども園を対象とし、文書配布により行った。本年度も年間 12 回の実施を予定していたが、内 2 回については新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から中止となった。

【実施園】

- ・保育園 4 区(緑、若葉、美浜、花見川) 5 園
- ・保育所 1 区(中央) 1 園
- ・幼稚園 1 区(若葉) 1 園
- ・認定こども園 1 区(中央) 1 園

※新型コロナウイルス感染症感染拡大等の理由による実施中止園：保育所 1 園(緑)、認定こども園 1 園(若葉)

※令和 5 年 1 月実施: 幼稚園 1 園(花見川)、認定こども園 1 園(緑)

【内 容】

- ・集団場面での行動観察: 幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・職員と意見交換: 気になる子への対応方法などを協議
- ・各園職員へアンケート

※BASIC 形式での実施の場合、以下の項目を追加して行う

- ・保護者への事前説明: 文書による趣旨説明
- ・保護者への事前調査: ご家庭で困っていること、気になることの確認
- ・保護者への報告: 各児への所見を支援センターで作成、園から報告
- ・ミニ講座: 保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施(園が希望した場合のみ)

【協力関係機関】

- ・養護教育センター
- ・各区保健福祉センター
- ・千葉大学教育学部
- ・千葉市桜木園
- ・千葉市療育センター 療育相談所 / 相談支援事業所ぱれっと/ふれあいの家

【実施結果】

	形 式	人 数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
若 葉 区 A 園	LITE	19			
若 葉 区 B 園	LITE	15	0	5	9
美 浜 区 C 園	LITE	4	0	1	3
花見川区 D 園	LITE	15	2	2	8
緑 区 E 園	LITE	31			
中 央 区 F 園	LITE	20	0	4	12
若 葉 区 G 園	LITE	21	3	6	14
中 央 区 H 園	LITE	27	4	0	18
緑 区 I 園	LITE	8	1	2	3
花見川区 J 園	LITE	28	1	3	19
花見川区 K 園	LITE	R5.1月に実施			
緑 区 L 園	LITE				

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考 察】

近年、本事業への応募は毎年増加傾向にあり、利用未経験の保育施設での実施を優先的に
行っているが、過去に複数回利用経験のある施設からの再度の希望も少なくない。

意見交換の中では、「子どもの発達を気掛かりに感じているが、適切な理解の在り方や支援方法に
悩んでいる」「専門機関への相談を勧めていくことが望ましいと感じているが、保護者との
信頼関係の構築が難しい」といった声が聞かれる。本事業を通し、多職種を交えて話し合うことで、
子どもの特性への理解や関わり方のみならず、保護者支援の方向性についても明らかにし、施設内で
共有していくことができるという点にニーズがあると考えられる。実施後に、施設と保護者との間で
共通理解が図られ、すくすくサポートや専門機関への相談へと至るケースも増えている。
また、専門機関に繋がらないケースでは、講師派遣（実技中心）などを通して施設への
コンサルテーション的役割を担いながら間接的な支援を継続して行っている。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
R04/06/14	施設職員研修	15	場所:千葉市子育て支援館 内容:「発達障害の基礎知識～気になる子への理解と対応～」 対象:施設職員15名 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R04/06/15	特別支援教育事例研究会	25	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象:幼稚園、認定こども園教諭 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R04/07/04	職員研修	13	場所:千葉市養護教育センター 内容:ペアレント・トレーニング① 対象:職員 講師:発達支援員 斎藤幸佳 高橋あかね
R04/07/14	職員研修	13	場所:千葉市養護教育センター 内容:ペアレント・トレーニング② 対象:職員 講師:発達支援員 斎藤幸佳 高橋あかね
R04/07/28	養護教育センター 専門研修	55	場所:養護教育センター 内容:「発達障害の支援～進路・就職支援について～」 対象:小・中・特別支援学校教員 講師:所長(相談支援員) 仲村 美緒
R04/08/09	千葉市内公立高等学校 特別支援教育 コーディネーター学習会	22	場所:Web会議ツールZOOM 内容:「発達障害の理解と具体的支援について」 対象:千葉市内公立高等学校特別支援教育コーディネーター 講師:相談支援員 奥田幸子
R04/08/19	千葉市立椿森中学校 校内研修会	15	場所:千葉市立椿森中学校 内容:発達障害に関わる基本的な知識と支援について 対象:椿森中学校教職員 講師:相談支援員 奥田幸子
R04/08/26	施設職員研修	10	場所:第2幕張海浜保育園 内容:「気になる子への理解と対応」 対象:保育士 講師:発達支援員 高橋 あかね、巡回相談員 小田 亜澄
R04/08/30	ワークシステムサポート プログラム	3	場所:障害者職業総合センター(Web会議ツールZOOM) 内容:「発達障害の強みを活かして生活する、働く」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R04/09/02	施設職員研修	8	場所:桜が丘晴山苑 内容:発達障害の基礎知識 対象:桜が丘晴山苑職員 講師:相談支援員 奥田幸子
R04/09/22	施設職員研修	6	場所:千葉さざなみ幼稚園 内容:「気になる子への理解と対応」 対象:幼稚園教諭 講師:巡回相談員 田宮真理子、発達支援員 高橋あかね
R04/09/30	施設職員研修	48	場所:アプリ児童デイサービス本千葉 内容:発達障害・知的障害について 対象:指導員等48名 講師:発達支援員 高橋あかね
R04/10/07	千葉市障害者グループホーム 等連絡協議会 定期研修会	20	場所:社会福祉法人りべるたす(Web会議ツールZOOM) 内容:発達障害の理解と対応 対象:グループホーム職員 講師:所長(相談支援員) 仲村 美緒

R04/10/19	特別支援教育事例研究会	25	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象:幼稚園、認定こども園教諭 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R04/11/22	ワークシステムサポートプログラム	2	場所:障害者職業総合センター(Web会議ツールZOOM) 内容:「発達障害について学ぶ発達障害の個性(強み)を活かすために大切なこと～」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R04/12/15	千葉市自閉症協会勉強会	12	場所:親子相談センター 内容:自閉症児者のコミュニケーション支援について 対象:千葉市自閉症協会会員 講師:所長(相談支援員)仲村美緒
R04/12/18	第200回 千葉県なの花会 月例会	40	場所:千葉市民会館 特別会議室 内容:「発達障害の基礎知識 ～大人の発達障害とは何か。引きこもりとの関係性について考える～」 対象:なの花会会員 講師:川崎 正崇

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント・研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①主催講演会

日付	名称	人数	内容
R04/09/01	第1回発達障害講座	333	内容:「発達障害のある方の生きる力を育むために～子ども時代にできること～」 講師:相模女子大学 日戸由刈 先生 会場:オンデマンド配信 9/1～9/25 (15日間)
R04/11/14	第2回発達障害講座	268	内容:「発達障害の理解と支援～思春期から成人期 支援のポイント～」 講師:千葉大学子どものこころの発達教育研究センター 大島郁葉先生 会場:オンデマンド配信 11/14～11/30 (17日間)

②地域住民等に対する普及啓発

日付	概略	内容
R04/04/02	第14回世界自閉症啓発デーinちば ～みんな大切な仲間です～	場所:千葉市生涯学習センター アトリウムガーデン、ホール 内容:自閉症の方達の作品展示、千葉県自閉症協会や各発達障害者支援センターの紹介、パネル展示など キャラバン隊や障害のある方のミニコンサート、ミュージカルの録画上映
R04/07/15	施設見学 子育て支援コンシェルジュ	千葉市発達障害者支援センターの概要説明、意見交換

③関係施設・関係機関等の連携

日付	協議会名称	開催地	内容
R04/05/26	第1回千葉市自立支援協議会 運営事務局会議	若葉保健福祉センター	(1)資料確認・自己紹介 (2)医療的ケア児等支援部会の進め方について (3)アンケート調査結果について (4)ヤングケアラー・支援困難者事例
R04/05/31	第1回特別支援連携協議会 代表者会議	ポートサイドタワー	(1)開会 (2)主催者挨拶 (3)出席者紹介 (4)報告・協議 ①令和3年度第1回特別支援連携会議の議事録報告 ②令和3年度第1～3回特別支援連携協議会実務担当者会議報告 ③今年度の取組(案) ④グループ討議 ⑤各グループの報告 ⑥その他 (5)諸連絡 (6)閉会
R04/06/07	第2回 千葉市地域意見交換会	加瀬の貸会議室 千葉中央 ホール	(1)意見交換 (2)求人案内 (3)連絡事項及び、情報共有
R04/06/28	第1回特別支援連携協議会 実務担当者会議	千葉市養護教育センター	(1)開会 (2)あいさつ (3)出席者自己紹介・各課・機関の主な事業紹介 (4)報告 ①令和3年度第3回実務担当者会議(書面開催)の議事録報告 ②令和4年度特別支援連携協議会の報告 ③連携サポートリスト調査結果について (5)協議 ①実務担当者会議 令和4年度の具体的取組の内容について ②その他 (6)諸連絡 (7)閉会

R04/06/29	千葉公共職業安定所管内 障害者雇用連絡会議	千葉公共職業安定所	(1)開会 (2)千葉公共職業安定所長あいさつ (3)議題 ①職業紹介状況及び関係機関との連携について ②障害者雇用率制度について ③障害者虐待防止、障害者差別の禁止及び合理的配慮について (4)情報交換・意見交換 (5)閉会
R04/07/15	千葉市子ども・若者支援 協議会 代表者会議	千葉中央コミュニティセン ター	(1)開会 (2)挨拶 (3)委員紹介 (4)議題 ①令和3年度千葉市子ども・若者支援協議会活動報告 ②令和4年度千葉市子ども・若者総合センターLink相談状況 ③令和4年度千葉市子ども・若者支援協議会活動計画について ④千葉市ひきこもり対策推進事業について (5)協議(グループ) ・「子ども・若者支援の今後の在り方について」 ～千葉市子ども・若者総合相談センターLinkのケースを元に～ ・講評 (6)連絡 (7)閉会
R04/08/22	第1回千葉市自立支援協議会 全体会	書面開催	(1)報告事項 ①令和3年度千葉市地域自立支援協議会活動報告 ②千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について ③受け入れ先サービス事業所等を探す際の課題に関するアンケート調査報告書 ④千葉市の障害福祉関係統計資料 (2)協議事項 ①令和3年度障害者基幹相談支援センターの運営状況について ②令和3年度地域生活支援拠点事業の運営状況について ③日中サービス支援型グループホームについて
R04/09/07	令和4年度特別支援連携協議 会研修会及び第2回実務担当 者会議	千葉市養護教育センター	(1)開会のことば (2)研修会「ユニバーサルデザイン教育を通じた連携」 講師 淑徳大学 松浦俊弥 先生 (3)実務担当者会議 ①第1回実務担当者会議 議事録報告 ②進捗状況報告 ・総合案内パンフレットについて ・行動障害への対応について ・その他 (4)協議 「高校終了段階での支援について」 (5)諸連絡 (6)閉会のことば
R04/09/22	第3回 千葉市地域自立支援 協議会 運営事務局会議	美浜保健福祉センター	(1)報告事項 ①各区地域部会より報告 ②医療的ケア児等専門部会より ③医療的ケアのある方の個別防災計画について ④地域生活支援拠点等担当者会議より ⑤強度行動障害を主たる要因として支援困難な方の支援について ⑥地域共生社会構築における基幹相談支援センターの役割について (2)検討事項 ①医療機関との連携についての課題 ②障害が重複する方の支援の困難さについて (3)その他
R04/10/18	令和4年度第4回千葉市地域 意見交換会	千葉商工会議所(ZOOM参加)	(1)「企業にきいてみよう」 ・SMBCグリーンサービス ・㈱フロンティア ・ピーアシスト㈱ (2)求人案内 (3)連絡事項及び、情報共有
R04/11/15	子育て支援ネットワーク会議	千葉市役所	(1)開会および子育て支援館 館長挨拶 幼保支援課挨拶 (2)情報交換・意見交換等 ①療育相談所の現状について ②プレママ・プレパパ向けひろば、多胎児向けひろば現状および今後の予定 ③産後ケア事業について、どの程度利用されているか 事業内容、利用実績など ④里親支援制度の推進について 支援施設として必要な配慮について ⑤千葉市の委託を受けていない子育て支援施設について 幼保運営課より、健診前の連携について (3)グループ討議 (4)その他
R04/11/24	第4回千葉市自立支援協議会 運営事務局会議	きぼーる	(1)各区の地域部会からの報告 (2)行動障害を考える会報告 (3)医療的ケア部会報告 (4)就労のコア会議について (5)共有事項

4. サロン「しえるろっく」

発達障害の診断を受けており、診断名を告知されている 18 歳以上(高校生を除く)の方を対象とした茶話会を実施している。日常的な話題を中心としたコミュニケーションや、アナログゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。参加人数は毎回 4 名程度である。全 8 回の開催を予定しており 12 月末で 6 回終了している。

今年度は、昨年度好評だったボッチャの競技体験や所外での散策活動、雑誌の切り抜きを活用したコラージュ制作を実施している。新しい参加者が加わったことでこれまでと違った会話の広がりやゲームを楽しむことができ、当事者同士で新たな気づきを得る機会になっている。就労している参加者にとっては仕事を忘れ、仲間と会話やゲームを楽しめる貴重な息抜きの時間として活用できている。

5. ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。ASD もしくは ADHD と診断された子どもを持つ保護者を対象とし、合同でグループを編成した。

○プログラム

【参加者】

・ASD もしくは ADHD と診断された子どもの保護者 6 名(未就学児 3 名、小学生 3 名)

【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組み合わせー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

※セッション 7 は欠席者が多かったため順延とし、セッション 7・8 をまとめた全 7 回を実施した。

【考 察】

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策に配慮し、定員を 6 名として実施した。保護者からは、宿題を通して子どもの好ましい行動を探しほめることに取り組み、保護者自身の関わりが変わることで親子関係が改善したり、子どもが自ら進んでお手伝いや宿題等に取り組むようになったとの報告を受けている。グループは終始和やか雰囲気活発な意見交換が行われ、終了後の感想では、「これまでは感情的に叱ってしまうことが多かったが、ほめることの大切さを実感した」「ほめられることで子どもも穏やかになった」といった肯定的な意見が多く挙げられている。

○リーダー養成研修

【参加者】

- ・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 9 名
- ・実務研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 3 名

【内 容】

- ・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明
- ・実務研修 グループのセッション全 7 回を見学、その後に内容を説明

【考 察】

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講しながら、3年ぶりに基礎研修と実務研修を行った。基礎研修は定員を 30 名から 10 名(当日欠席 1 名)へ人数を減らしての実施となった。22 名の応募があり、本年度も募集の段階でペアレント・トレーニングの実施予定の有無を確認し、実施予定のある 3 施設を優先的に参加してもらった。事業所での実施状況については、1 施設が実施しているとの報告を受けている。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、参加者の勤務先である事業所の人手不足により、研修を欠席することが相次ぎ、全員が揃った回は一度しかなかった。ペアレント・トレーニングは、前回学んだことに次の内容を積み重ねて学ぶ、ステップバイステップの方式であることから、継続した参加ができることが望ましい。今後しばらくはこのような事態が起きることは十分に考えられる。

定員を大きく上回る応募があったことから、日々の支援においてペアレント・トレーニングへの興味関心は高いことが伺える。未だ先行きが見えない状況に加え、参加者の学びの場を確保する上でも今後の実施方法について、検討していく必要がある。